

■レバノン：ベイルート爆発災害から4か月、現地で続く赤十字の復興支援と海外救援金のご報告

日本赤十字社（以下、日赤）では、今年8月4日（現地時間）にレバノンの首都ベイルートで発生した大規模爆発災害によって被災された方々への支援のため、中東人道危機救援金（レバノン爆発）への皆さまのご協力をお願いして参りました。この度、3か月にわたる同救援金の受け付けを10月31日をもって終了致しました。

皆さまからお寄せいただいた救援金は、11月5日時点で2,200万円以上（速報値）となりました。日赤では、これらの救援金をもとに、レバノン爆発災害の被災者支援のため、国際赤十字・赤新月社連盟と赤十字国際委員会の緊急救援アピールに対して、追加での資金援助を行うことを決定いたしました。同救援金は全額、レバノン共和国における赤十字の人道支援活動のために使われます。



皆さまの温かいご支援とご協力に、こころより感謝申し上げます。

誠にありがとうございました。



レバノン赤十字社のボランティアたち ©レバノン赤十字社

■ バイルート爆発災害と赤十字の救援・復興支援活動

犠牲者 200 人以上、負傷者も 6,500 人以上を出した大災害の中、現地ではレバノン赤十字社（以下、レバノン赤）が救助活動や輸血用血液の確保・供給をはじめとしてさまざまな支援を行ってきました（詳しくは[国際ニュース第 41 号](#)を参照）。緊急救援期を終えた後の現在も、レバノン赤は長期支援計画の下、災害からの復旧・復興に向け、各世帯を訪問して被災家屋の状況調査やニーズ調査を行い、人びとのニーズに応える支援を実施しています。このようにして、現地では赤十字のボランティアたちが、人びとに寄り添った支援を継続して行っています。

レバノン赤十字社の支援を受けて生活再建に向かうバイルートの人びと



©レバノン赤十字社

レバノン赤で活動するボランティアたちに対して、バイルート市民の受益者からは、「私たちへの支援のために、みんな身を粉にして頑張ってくれました。」「彼らが私の元に駆けつけてくれたとき、私は心から安堵し、再び息をすることができた思いです。」といった感謝の言葉が届いています。

日本赤十字社は、このような被災した人びとや、最前線で活動するレバノン赤のスタッフ・ボランティアたちに寄り添い、日本からの温かい支援を届ける活動を今後も継続していきます。※中東地域支援のための中東人道危機救援金は 11 月以降も引き続き[受付中](#)です。

助けあわなければ、
感染症から世界は守れない。

NHK 海外たすけあい
12.1 (Tue) ~ 25 (Fri)

日赤 海外たすけあい 🔍

救いを託されている。



日本赤十字社
Japan Red Cross Society